

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390200220		
法人名	社会福祉法人 川岳福祉会		
事業所名	グループホームしあわせの里		
所在地	熊本県八代市二見本町字門前924-2		
自己評価作成日	平成 26年 3月 14日	評価結果市町村受理日	平成 26年 6月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成26年3月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・認知症に対する知識を正しく理解し、個人にあったケアを行なっています</li> <li>・ご家族との信頼関係を大切にし、要望や意見を言いやすい雰囲気作りを心がけています</li> <li>・地域の一員として、みんなが安心・安全に暮らせるように努めています</li> </ul>
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、家族や訪問者を笑顔で受け入れ、帰り際もまた来て頂けるよう心を込めて送り出しているそうです。面会簿やアンケート調査からも、その取り組みが実を結んでいることが分かりました。調査当日も、利用者の穏やかな表情が印象的で、アットホームな感じが伝わりました。また、食事風景も和やかで、ひとりひとりが自分のペースで食べておられ、私の問いかけにも違和感なく対応され、ここに安心の住まいを見つけられたと実感しました。</p>
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人としての理念、事業所としての理念があり新人研修にて法人理事長より勉強会がある。事業所の理念については、ホーム内に掲示することで常に意識して支援できるよう職員皆で共有を行っている	事業所の理念は、第一により良いケアの追求、第二にケアの向上を図る取り組み、第三に地域の一員として出来ることと地域の安心・安全への貢献の三項目から成っており、それぞれに達成するための方法が記されており、玄関ホールに掲示されている。職員からの聞き取りでは、出勤時や落ち込んだ時等に目を通し、気持ちを新たにすることが聞かれた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の行事や、学校行事にも積極的に参加するよ引こしている。昨年8月の夏祭りには地域住民のかたの参加も多数みられ、大変好評だった。又、入居者だけでなく、職員も地域の祭りで行われたカラオケ大会に参加したり、小学校の運動会に選手として出場したり交流を深めることができた	町内には、地元自治協議会が運営する店舗「しよい」があり、ここが行う行事その他収穫祭、山の神の祭り等々、地域ならではの催しがあるようである。その際、職員が積極的に参加し、交流を深めている。また昨年8月には、事業所主催の夏祭りも行っている。地域の方々に参加を呼び掛けたところ、多数参加があり、大変賑わったようである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域共生くまもとづくり補助事業として、介護交流会や地域づくり後援会を開催。主に地域の方に参加いただき、介護をされている家族交流の意見交流や、講師の方との意見交換会等行われ、認知症の理解や支援方法について、ホームと地域と一緒に学ぶ機会の提供ができた		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回地域の方、家族の方含め多数の委員の方に参加頂いており、意見やアドバイスをもらっている。ホームと委員だけの交流以外に委員同士の意見の交流も多く見られている	運営推進会議は、奇数月の第3金曜日に行われている。外部からの出席者は、市の長寿支援課、老人会会長、自治協議会会長、民生委員、二見出張所所長、市政協力員、区長、地域包括支援センター長と大変多彩な顔ぶれとなっている。会議では、利用者の状況や事業所の取り組み等について報告し、意見やアドバイスをもらっている。また出席者同志による意見交換も活発に行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を密に取るように心がけているが、事業所からの発信は少ない	運営推進会議には、長寿支援課の主任、二見出張所所長も出席しており、事業所の実情や取り組みについて説明している。また、管理者の方からも連絡を密に取るように心掛けているが、就任間もないということもあり、今後更なる連携が取れると思う。	

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体が具体的な行為を理解しているかの確認は出来ていないが、研修や勉強会を行なっている。身体拘束を行なわないことを前提としたケアを行なっている	事業所は、身体拘束に関するマニュアルを備え付けている。法人が主催する研修会と、年1回の事業所単独での勉強会を行っており、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。事業所で行っている勉強会では、毎回を職員が担当して開いている。また、職員の聞き取りからは、YesかNoでしか答えられないような声かけをしないように注意しているとのことであった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会で共有はしているが、振り返りと学ぶ機会として実施出来てない		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内での勉強会を行なっているが、個々の必要性の話し合いや活用までは至っていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、改定時にはホームのケアの考え方を契約時に説明を行ない同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族との交流を図り、日々の様子しながら意見や要望を聞いている面会簿の活用も生かしながら取り組んでいる	事業所は、面会に来られる家族等との関係づくりに力を入れています。また、それぞれの利用者ごとに面会簿を作成しており、家族の意見や感想、それに対する職員からの応答、日々の様子等が記載されています。面会簿が大変重要な役割を担っていることが分かった。	家族からは、なかなか本音は言いにくいと思います。常に謙虚に耳を傾ける姿勢と話しやすい雰囲気づくりにも取り組んで欲しいと思います。また、第三者苦情処理機関のポスターの掲示もお願いします。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	現場でその都度職員からの意見が言えるよう環境づくりをしている 定例会議などの中で話し合っている	いつでも職員からの意見や提案を聞く準備をしている。これまで、予防接種の医療機関を近くの協力医に変更したり、定例会議の進行方法を工夫したりと、職員の意見や提案で改善を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面接などは行っておらず、日々の業務の合い間を通して、個々の努力や勤務状況の把握に努め、やりがいなど各自向上心につながるよう努めている		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の目標・希望に応じて法人内外の研修を受けるように努めている 実践者研修は受けているが、リーダー研修は受けていない		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH八代連絡会でのネットワークづくりや勉強会での交流に努めている 相互訪問は出来ていない		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談の時点で困っている事、不安な事、要望は時間をかけ聞くように努めている 入居時訪問などを通して、本人と話す時間を多くつくるようにして思いを知る努力をしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の時点で困っている事や要望をじっくり聞き、思いを受け止めるよう関係づくりにも努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームを利用できない方でも相談の時間をつくり、本人やその家族に必要なサービスが利用できるよう支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の大先輩でもある利用者の方々にたくさんのお話を聞いてもらっているが、敬う気持ちがない声掛けだったり、介護をしてあげるという場面も見られる		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への報告や相談を欠かさないように努めている 家族と一緒に考え、支え合えるよう情報を共有している		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の状況に応じて安心できる場所へ行ったり、自宅周辺の地域への訪問もしている 面会も家族に限らず、知人などもある	事業所が家族や来訪者との交流に力を入れていることもあり、調査当日も従弟さんやご主人の訪問があっており、妹夫婦や兄弟、孫等、頻繁に面会に来られている様子が面会簿等から分かった。また、家族の協力もあるようで、友人宅を訪問したりと、本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人との関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がその時々に関わりながら協力し合う事もみられる 職員は見守るよ引こしており、状況に応じて関わっている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の自宅への訪問、家族に対する相談援助などの関わりがあっている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の言葉や表情、家族からの情報をもとに、本人の気持ちに添えるよう努めてはいるが、職員間の共有や、利用者の立場で考える難しさはある	簡単ではないようだが、日々の係わりの中で、言葉や表情、また家族からの情報をもとに、思いや意向の把握に努めている。また職員の聞き取りからも、観察することの大切さについての指導があった。仕草や目線の向け方、立ち上がって廊下を歩く時の様子等に注意を払い、よりよい支援を心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員が本人や家族との関係を築きながら、生活歴やなじみの暮らし方などの把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者との毎日の関わりの中で見られる小さな気づきを職員同士で共有できるよう情報交換に努めている		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、本人や家族、ケア担当者の意見を聞きながら、ケアプランへ反映させている	介護計画は、ケアマネージャーが中心となって作成している。家族の意見や要望については、訪問時に確認している。必要に応じて、かかりつけ医の指導を受けたり、その他作業療法士からは、ポジショニングや座位時の指導を、体重の増減がある場合には、管理栄養士に相談したりと、現状に即した介護計画になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は業務開始前にケース記録・業務日誌・連絡ノート等を読み、情報を共有している疑問点は確認を行いながらケアへあたっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と一緒に地域行事へ参加はしているが、それ以外の取り組みは殆どない		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方から畑で採れた野菜を頂き、利用者と一緒に調理を行い食事を楽しんでいる地域との交流は少なく地域資源の把握にも努める		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への相談や情報交換を行う事はできている 家族だけの受診が難しい場合はホーム職員も同行するなどし対応している	本人・家族が希望するかかりつけ医の受診を支援している。かかりつけ医受診は、家族の対応が基本となっている。ただ、ひとり暮らしや詳細な説明を必要とする場合には、ホーム職員も同行している。半数以上の利用者が、職員の同行を必要としているようである。また週に1回は、訪問看護ステーションの健康チェックを受け入れている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々気づいた事を看護職へ相談・幸反告しながら共有を図っている 八代医師会訪問看護ステーションが週1回健康チェックを行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の理解があつての入院受け入れは困難な場合が多いため、家族や主治医への相談に努めている		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	希望があれば看取りを行う事を契約時に説明し同意を得ているが、希望に沿った対応が可能かには不安が大きい 終末期は医療的な処置も必要となり、職員研修も必要でハードルは高い	重度化や終末期に向けた方針として、事業所は契約時に看取りに関する指針を説明している。その内容は、大筋、次の通りとなっている。「入居者の方が重度化した場合、本人及び家族の希望により、ホームでの看取りを家族の協力の下行う。」というものである。ただ実際に行うにあたっては、いくつかの要件があるとのことである。	看取りケアの重要性が指摘されています。医療機関の協力、家族の協力・理解、職員のスキルアップ等々、日頃から準備を進めて欲しいと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内会議で勉強を行っているが、全職員が急変や事故時に対応できる実践力を身に付けているかは確認できてないが、不安の声は多い		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本年度は消防の署の協力により、消防訓練(避難・誘導・消火)を2回実施 運営推進会議の中でも想定し、総合訓練として実施はできたが、災害時を想定とした訓練には至らなかった	消防訓練(避難訓練・誘導・消火)は、年2回行っており、2回とも消防署の協力のもと実施している。その内1回は、夜間を想定して行っている。また、隣接に有料老人ホームも開所しており、今後は合同で行い、区長や自治協議会にも参加を呼びかけて行いたい意向のようである。非常時に対する備えとして、飲料水、米、寝具の備蓄を行っている。	利用者が安全に避難するためには、日頃の訓練と地域の協力が重要です。いざという時、訓練以上のことを期待することは出来ないと思います。緊張感を持った訓練をお願いします。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方を尊重した言葉づかいが出来るよう、会議や実践の場で指導を行っているが、不十分である	法人では、人格の尊重について、まず上に立つ者が認識することが大切と考え、外部から講師を呼んで勉強会を行っている。また管理者からは、経験3年から5年の職員、慣れた頃が要注意ということであった。職員の聞き取りからは、利用者を見下したり、嘲笑したりしないことが、人格の尊厳だと思おうという話があった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望を表出できる方に対しては、希望時に散歩・買い物などはできているところもあるうまく表現ができない方に対しても、まず本人に聞く事を心掛けて対応しているが、不十分である		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のその時の気持ちを大切にしようと努めてはいるが、その日の職員体制などで希望を聞くことや添えないことがある		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ホーム内でのおしゃれは出来ていない事もあるが、身だしなみは心掛けた支援に努めている外出時は家族が選んだり、本人が選んだりしておしゃれをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理のしたごしらえや盛り付け・味見・後片付けを相談しながらやる事は多く見られるが、それを出来る利用者は少ない 日課的になっておられる方もいて、積極的にお手伝いをされる	食事風景は、とてもゆったりと穏やかであった。ほとんどの利用者が、普通食のようだったが、荒きざみ等、個別対応も行っている。お話しましたが、なんでも出来る利用者が居られた。皿洗いから最後のキッチンのお掃除まで、まるで自宅のキッチンに立っているようであった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	それぞれの職員が食事や水分の観察を行っている その人の状態に応じた支援に努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時や毎食後の口腔ケアを行っている義歯補修の必要な方もおられたので、訪問歯科往診の対応・アドバイスや指導をもらっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の排泄パターン・シグナルを見逃さないよう、トイレ誘導を行い、日中トイレで排泄してもらえよう努め、夜間以外はオムツをはめないよう支援している	利用者ひとりひとりの特徴を見逃さないよう、トイレでの排泄を支援している。時間による声かけや、落ち着きがなくなる、そわそわする、食事が進まない等、固有のシグナルがあるとのことであった。また排泄がうまくいくように、水分補給や食べ物にも工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりに合わせた下剤の調整や、なかなか水分が少ない方へは、果物やゼリーを提供したり工夫している好みや習慣に合わせた支援や、酵素ヨーグルトも食べてもらっている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴予定者は入浴表をもとに入浴を提供しているが、本人の状態に応じ柔軟な対応に努めているその方の気持ちとペースに合わせて支援している	入浴回数は、週に3回を予定している。時間的には、午前の場合も午後の場合もある。入浴表をもとに支援しているが、無理強いせず、利用者の気持ちとペースを大事にした支援を心がけている。拒否については、時間を空けて声かけしたりと工夫している。ゆず湯・しょうぶ湯、単発的に入浴剤の使用も行っている。	

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて日中でも安心して休めるように支援している 夜間の就寝時間も本人のペースに合わせた柔軟な対応に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬品名シートをファイルにまとめ、職員が確認できるよ引こしている 一人ひとりの職員が目的や副作用などの理角早については十分でないと感じている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や、今までの家庭や仕事での役割を日々の中で発揮できるような支援に努めているが、十分でないところもある		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は散歩・買い物ぐらいとなっているが、その日の本人の希望に添える事ができない時が多い 家族の協力のもとでの外出は時々ある	外出の希望がある方は半数ぐらいで、全くない方もおられるようである。日常的な外出としては、散歩や日用品、また誕生日のプレゼント等を買出しに出掛ける事が主である。季節によりアジサイやコスモス、紅葉見物等の支援も行っている。また家族の協力のもと、出掛けられる利用者もおられるとの事である。	事業所は、大変自然環境に恵まれた場所にあります。この環境を生かして、特に希望の少ない利用者の外出支援(日光浴等)に取り組んでほしいと思います。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームへヤクルト・パンの販売へ訪問されるので、お金を使える機会として支援しているが、全ての利用者の方への支援にはなっていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自らが電話をしたり、手紙を書くことは難しいが、家族から送られてきた手紙を見たり、かかってきた電話で話をしている 今年の正月、利用者の方々から年賀ハガキを家族に出す取り組みを行った		

グループホームしあわせの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所での食事作りの香りや音、季節の野菜や花などで、生活感や季節感を感じてもらえる空間作りに努めている	事業所は、玄関・廊下・利用者の皆さんが集まれるリビングと、とてもゆったり設計されている。その上、内装材にもサクラや杉等の馴染み深い素材が豊富に使用されており、とても明るく穏やかな空間となっている。また、室内環境にも気を配っており、加湿器を設置したり、午前・午後に換気を行い、感染防止にも努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング・廊下・縁側など、思い思いに過ごせる場所の工夫に努めているが、十分でないところもある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら馴染みの物や好みの物を用い、本人にとっての居心地のよい空間作りに努めているが、十分でないところもある	居室の基本設備は、ベッド・空調・カーテンとなっている。寝具や日用品等については、使い慣れた物を持参してもらうように話している。居室には、誕生会の写真等が貼ってあり、居心地よく過ごせるよう工夫がされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所横の作業台の突出し・リビング・トイレのドアのレーンの段差の部分もあるが本人のわかること、できることを職員が把握して見守りに努めている		